

市内用水路に関する アンケート調査結果 報告書

調査概要

・調査目的

用水路の沼さらいに参加していただいている地域から、用水路近接者の立場としての意見や要望等を把握することを目的としてアンケート調査を行いました。

・実施概要

- 1 実施期間
令和3年10月18日から令和4年1月31日まで
- 2 配布範囲
沼さらいを実施している自治会、JA支部
- 3 回収方法
郵送による回収

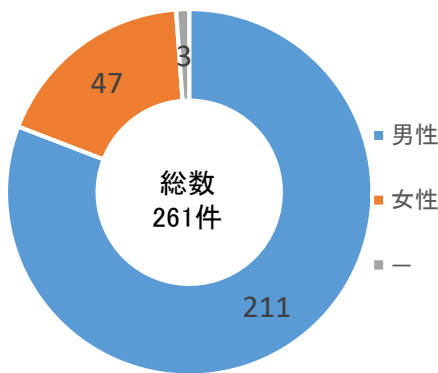


・回収結果

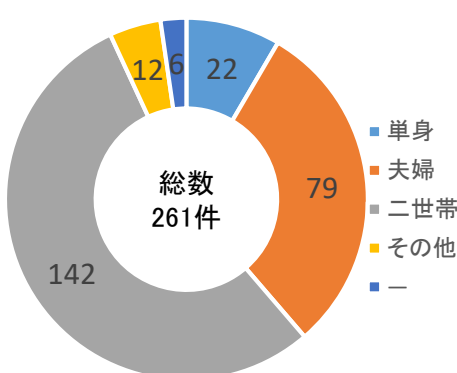
配布数：431枚
回収数：261枚
回収率：約60%

回答者の属性

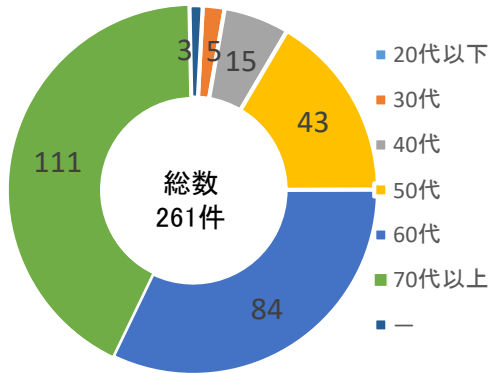
性別



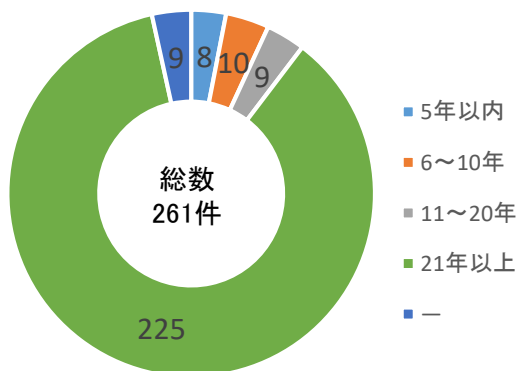
家族構成



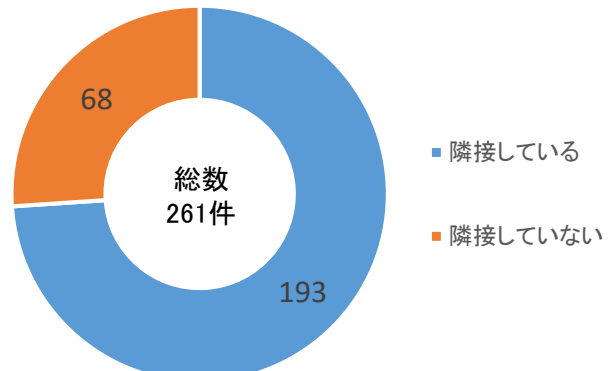
年代



住んでいる年数

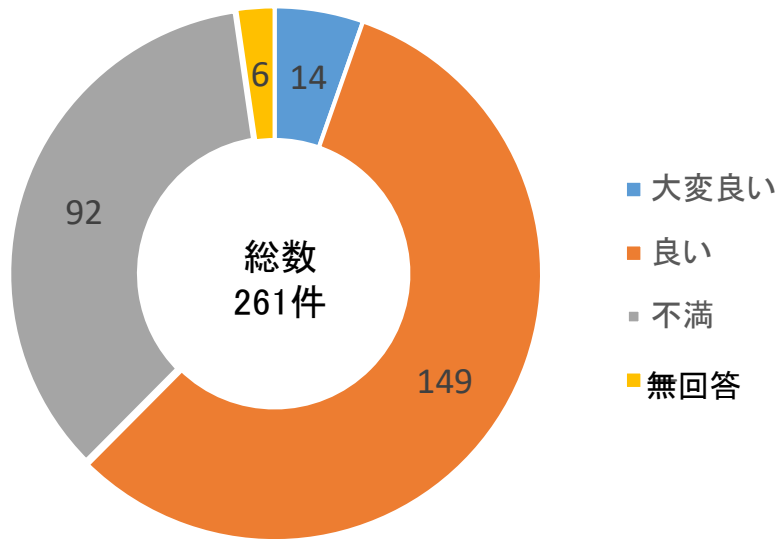


用水路に隣接



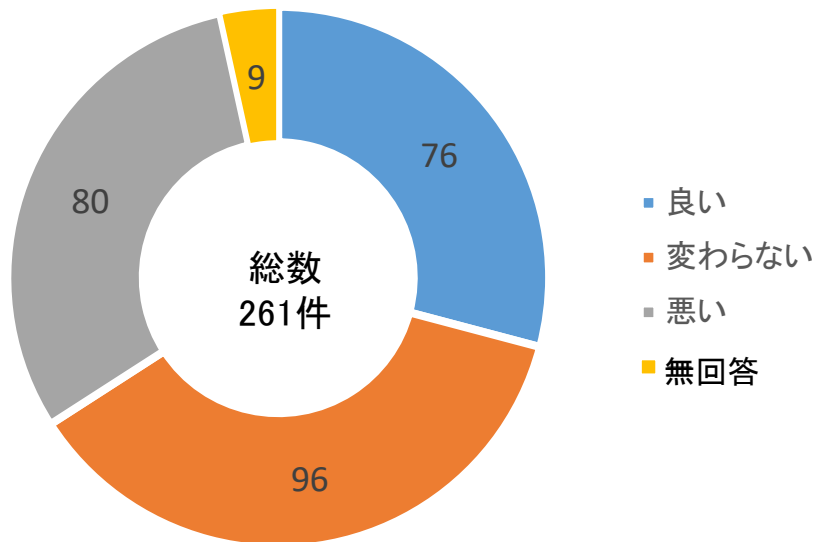
■アンケート調査結果

1. 景観・護岸の状態について



- 景観・護岸の状態について、「大変良い」と「良い」を併せて、163件（62.4%）、「不満」が92件（35.2%）、「無回答」が6件の結果となりました。不満について3割程度回答をいただいていることから今後も状態を改善する取組が必要であることが分かります。
- 「大変良い、良い」の回答をいただいた方の理由としては、「各所で整備されている」「自然を感じられる」等の回答をいただきました。
- 「不満」の回答をいただいた方の理由としては、「雑木が生えて汚い」、「雑草が繁茂している」「護岸を現在の鉄板ではなく、見た目の良いものにしてほしい」等の回答をいただきました。

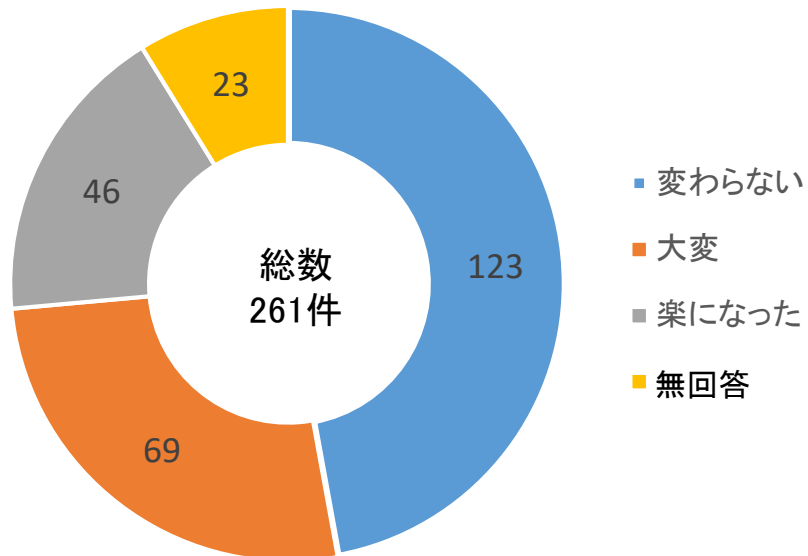
2. 昔からの変化について



- 昔からの変化について、「良い」が76件（29.1%）、「変わらない」が96件（36.7%）「悪い」が80件（30.6%）、「無回答」が9件の結果となりました。
- 「良い」の回答をいただいた方の理由としては、「ドブ川の時に比べ綺麗になった」「土留ができて土が崩れなくなった」等の回答をいただきました。
- 「悪い」の回答をいただいた方の理由としては、「ゴミが多くなった」「昔の方が自然的な状態だった」「生き物が少なくなった」「水がない」等の回答をいただきました。

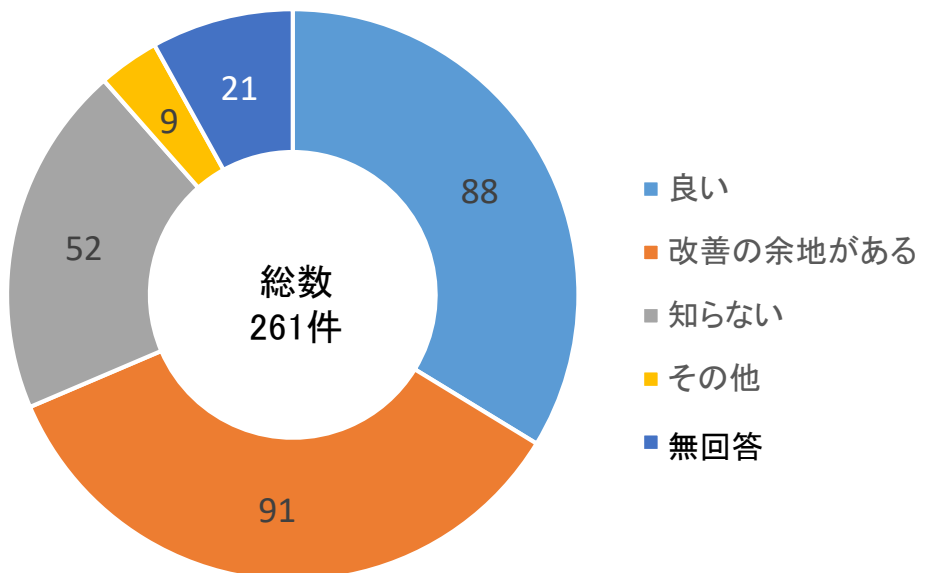
■アンケート調査結果

3. 沼さらい作業について



- 沼さらい作業について、「変わらない」が123件（47.1%）、「大変」が69件（26.4%）、「楽になった」が46件（17.6%）、「無回答」が23件の結果となりました。
- 「大変」の回答をいただいた方の理由としては、「高齢化で重労働が厳しくなった」「人手が減っている」等の回答をいただきました。
- 「楽になった」の回答をいただいた方の理由としては、「水が流れていないためゴミが少なくなった」「護岸で土が崩れにくくなった」等の回答をいただきました。

4. 市で整備した親水整備の状況について



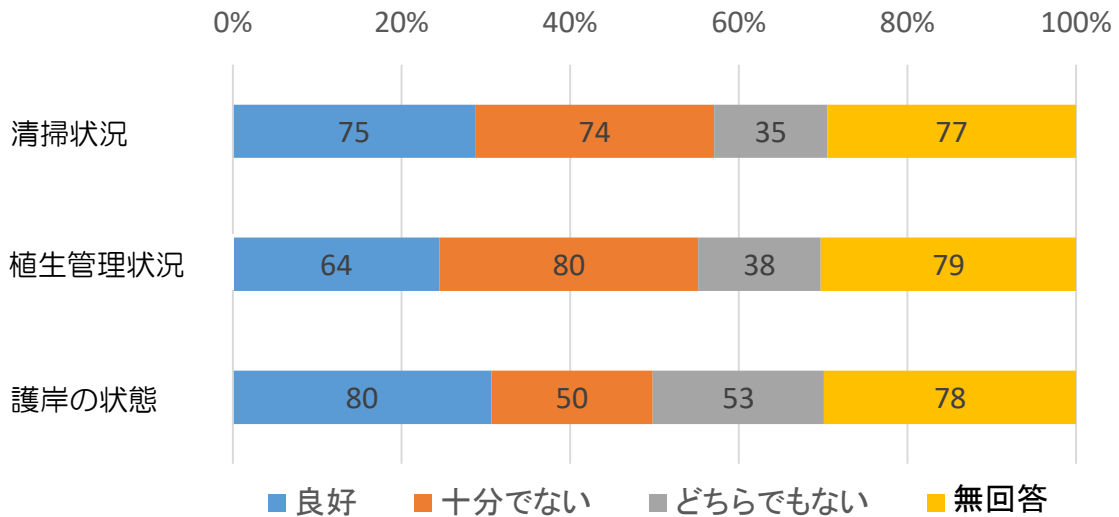
- 市で整備した親水整備の状況について、「良い」が88件（33.7%）「改善の余地がある」が91件（34.8%）「知らない」が52件（19.9%）「その他」が9件（3.4%）「無回答」が21件の結果となりました。「知らない」方が一定数いることが分かります。
- 「改善の余地がある」の回答をいただいた方の理由としては、「子供が遊びやすい高さだと良い」「数が多すぎるので絞って効率を上げた方がよい」等の回答をいただきました。

■アンケート調査結果

5. 市で整備をした18箇所について

質問 これらの箇所について、維持管理の状況をどのように感じましたか。

- 清掃状況 1.よく清掃がされている 2.清掃が十分ではない 3.どちらでもない
植生管理状況 1.管理が行き届いている 2.管理が十分ではない 3.どちらでもない
護岸状態 1.状態が良い 2.状態が悪い 3.どちらでもない

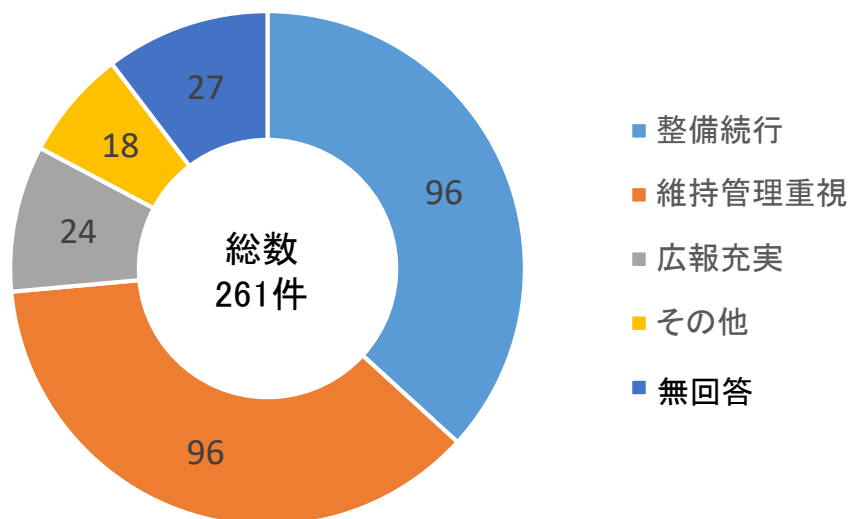


- 市で整備をした18箇所について、およそ4人に一人は「良好」と回答をいただいた一方で、同数程度「十分でない」と回答をいただきました。

6. 今後の取組について

質問 小平市ではこれまで“用水路のあるまち”を活かしていくうえで、日頃から親しめる用水路の場所を増やす取組を進めてまいりました。あなたは、今後の取組として何が一番重要であると思いますか。

- 1.整備を続けた方が良い 2.整備よりも、各々の質を高める修繕や管理を重視した方が良い
3.用水路を知ってもらう、広報を充実した方が良い 4.その他



- 今後の取組について何を重要するかについて、「整備続行」が96件（36.7%）、「維持管理重視」が96件（36.7%）、「広報充実」が24件（9.1%）「その他」が18件（6.8%）、「無回答」が27件の結果となりました。

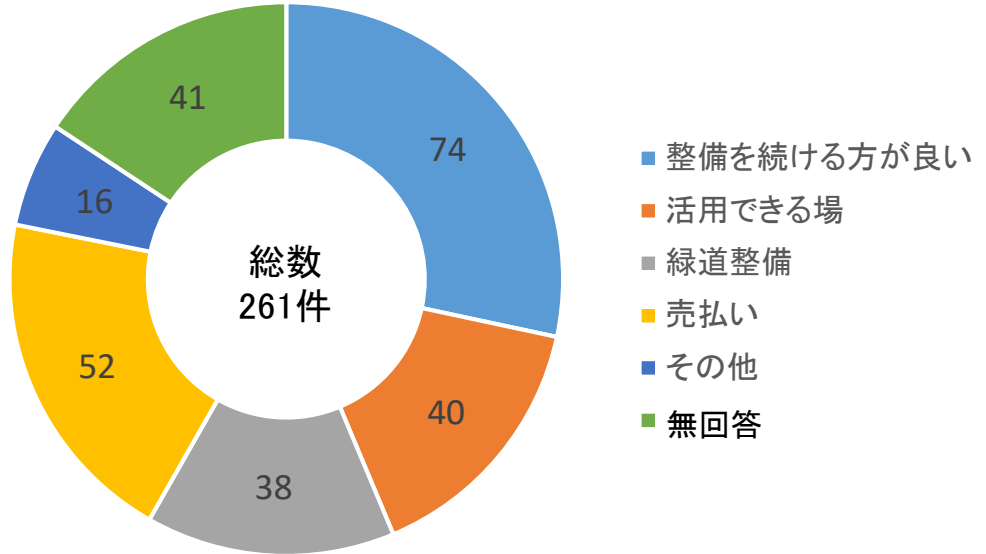
- 整備と維持管理については、どちらも進めていくことを望んでいること。広報についても一定の方が望んでいることが分かります。

アンケート調査結果

7. 流水のない東部地域の在り方について

質問 小平の用水路は多摩川の水を流しておりますが、一定量の制限があることから小平市内東部地域の用水路は枯渇している状況が続いています。あなたはこれらの地域の今後の用水路についてどのように考えていますか。

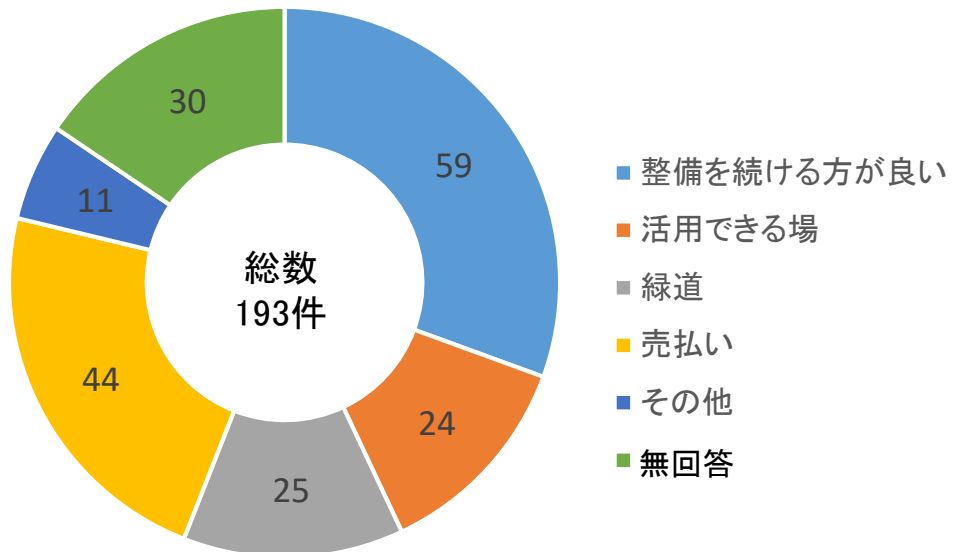
1. そのままの状態を維持した方が良い
2. 地域で活用できる場とした方が良い
3. 緑道として整備した方が良い
4. 用水路敷地を隣接者に払下げした方が良い
5. その他



・流水のない東部地域の在り方について、「整備を続ける方が良い」が74件（28.3%）、「活用できる場」が40件（15.3%）、「緑道整備」が38件（14.5%）、「売払い」が52件（19.9%）、「その他」が16件（6.1%）「無回答」が41件の結果となりました。

・活用、緑道、売払いについては、用水路を転用していく方向性を示したのですが、その数が130件（49.8%）と約半数の方が転用を望んでいることが分かります。

クロス集計（用水路隣接者のみを対象）



・同質問において、用水路隣接者のみを集計すると「整備を続ける方が良い」が59件（30.5%）、「活用できる場」が24件（12.4%）、「緑道整備」が25件（12.9%）、「売払い」が44件（22.7%）、「その他」が11件（5.6%）「無回答」が30件の結果となりました。

・概ね同様の結果であることが分かります。

8. 自由意見（抜粋）

●用水の在り方、計画に関すること

- （意見1）このまま維持することを希望。そのためには流水がきれいであることが重要。そのために効果ある施策を実施して欲しい。
- （意見2）用水路があるため、土地活用ができない。
- （意見3）現段階で水を止めるべきではない。将来に渡って残すのであれば認知度を上げることが必要。地域活性化の一助としたいのであれば、地域の活動に結びつくような取組が必要。年数程度のごみ拾いなどを実施したらどうか。
- （意見4）野中用水は水が流れていない。昔を思い出せるように水は残してほしい。
- （意見5）野中用水に関してだが、南側はほとんど水がきていない状態で暗渠が多く景観が良くなる背景もない気がするので、転用（売却）がいいか考える。
- （意見6）隣接地は隣接地の所有者の裁量で、用水路の景観維持を認めてほしい。
- （意見7）用水路があることが、小平市に移住した理由。ぜひこれまで通り用水を保全し、大切な子供達の学びの場として存在し続けてほしい。活用計画を初めて確認し、転用される用水路があることを初めて知り大変ショックを受けた。管理に大変な労力が必要かと思うが、ぜひとも、住民・行政共に協力し、残す方向に進んでゆけば良いと考える。

●沼さらいに関すること

- （意見1）沼さらいの参加者が減っていることから、市内の業者等に依頼するべき。支部、自治会の人も高齢化になり沼さらいが出来なくなる時が必ずくると思う。
- （意見2）沼さらいは地域のコミュニケーションの良い機会となっている面もあり、必ずしも業者まかせが良いとは言えない。
- （意見3）橋の下等、スコップの届かないところの沼さらいができない。
- （意見4）止水日数を伸ばしてほしい。止水が月曜日位から行われると時間的に余裕がもてる。
- （意見5）土手の押さえが邪魔で沼さらいがしにくい。

●整備に関すること

- （意見1）鉄板ではなく、景観に配慮した擬木等の施行を。
- （意見2）広いところは、池のように広い箇所を造って、石段で降りて水に親しめる空間があるとよい。
- （意見3）全ての用水路を緑道にするのは反対。ただ、緑道の適地は存在する。候補地があがったら、近隣住民の総意のもと進めてほしい。
- （意見4）子供達が楽しく水辺で遊べる場所を造り、住民と良い関係をつくれれば今より愛されるようになる。
- （意見5）法面の造作がまちまち。

●広報に関すること

- （意見1）用水のあるまち小平をPRしてほしい。
- （意見2）看板を取り付けして、歴史などこれから育っていく子供達へ伝えていってほしい。
- （意見3）どこから水がくるのか分からない。看板を立ててほしい。
- （意見4）市報の一面で特集して広報すべき。
- （意見5）市報の表紙全体を使って、小平市の成り立ちに対して、「市内中の用水」が重要な役割を果たした歴史的事実を改めて、大きく知らせること。

●その他

- （意見1）用水へのゴミの不法投棄をなくす対応が必要。（隣接者が処理しているのが実態）
- （意見2）除草をする回数を増やし、美観を保つようにしたらどうか。
- （意見3）土地が分断され、土地の有効利用が不都合である。
- （意見4）花や木を植えてほしい。もしくは自分でも良いのでやらせてほしい。
- （意見5）時折、鴨が泳いだり、水の流れがあることは生活に潤いを与えてくれる。
- （意見6）ホテルが出現。6年前から。
- （意見7）大沼田用水の新小金井街道沿いは天井川として造られてるので、歴史的、土木的に価値がある。

●回答者の属性について

回答者の属性として、60代以上の方の回答が7割以上を占め、また、住んでいる年数として21年以上の方がほとんどであった。偏りのある結果となったが、令和4年度に実施するアンケートが市内全域を対象としていることから、それらを併せれば偏りのない結果となると考える。

●景観・護岸の状態について

3割程度の方が不満と回答している。これまで整備や維持管理において、市では経済性を重視した鋼板による施工方法をとってきた。今後用水路を小平の地域資源として将来に残していくには、景観にも配慮した施工が必要になると考えられる。その中でアンケートの意見にあった茶系の色合いによる施工をとることを今後の方針の中に盛り込みたい。

また、同様に鋼板の施工における切梁についても不満をいただいた。過去の施工では、切梁を用いず、単管パイプの縦地を増やすことで自立性を高めていた。この施工方法についても検討していきたい。

●沼さらいに関すること

意見交換会では、今のところ自治会及びJA支部での今後も沼さらいを実施することは可能とのことであったが、アンケートでは、26%の方が大変であると回答しており、一定数不満があることが伺えた。今後も沼さらいが継続していくよう、定期的に確認していく必要がある。

●市が実施してきた親水整備について

整備した箇所について、2割の方が知らないと回答したことから、広報に関する取組が今後必要であると考えられる。また、3割程度の方が整備方法に改善の余地があると回答していた。この理由としては多様な意見をいただいたが、“子供が遊べる（近づける）整備とした方が良い”については、今後の方針の中に盛り込みたい。

●広報について

広報については多様な意見をいただいた。歴史の説明、流水源の説明について案内看板を設置することについては方針の中に盛り込みたい。市報一面を使った広報についても検討していきたい。

●今後の取組について

整備と維持管理については、どちらも進めていくことを望んでいること分かった。方針の中では整備を縮減する程度にとどめて記載したい。

●用水路の在り方について

全体的な傾向として、今回の調査が用水路隣接者であったことから、今までどおり保全を求める回答が多い結果であった。特に、野中用水については流水の復活を求める声を多くいただいた。このことから、現段階での転用は難しいと考える。しかし、一方で2割の方が売払いを求めている実態もあることから、用水路の在り方について今後も検討を続けていく必要があると考える。

流水の切替による流水の復活についても意見をいただいたとおり、今後の検討としたい。